

トモ肋骨への線入れ:mlcSP

脱骨方式

対象

トモの肋骨への線入れ

作業

- ①腹膜を除去する
- ②脱骨機で引っ張りつらい最後肋骨(第15, 16)には、一般的な線入れを行う。
(肋骨の下にナイフを丸く潜らせる)
- ③残る肋骨(第5～14(15)骨)は、肋間筋を確実に残すように、肋骨の両側に“縦”に線を入れていく
(長さは3～4cm程、深さは肋骨の厚さ＝深く入れない)。
なお、肋骨下には全く手を付けない(潜らせない)。
- ④肋骨先に引っ掛けを作る。第5～10(11)肋骨先端下に“横”にナイフを一刀入れる。
(深さ2cm程で十分)
- ⑤脱骨機(または手動)で、肋骨先端から除骨を行う。

作業 ポイント

- ①肋間筋を残すため、ナイフの“縦”的線入れは肋骨の両側に入れること。
また深く入れるとバラ肉に傷が入るので注意すること
- ②“横”的線入れは“引っ掛けを作るため”であり、必要以上に深く入れないこと

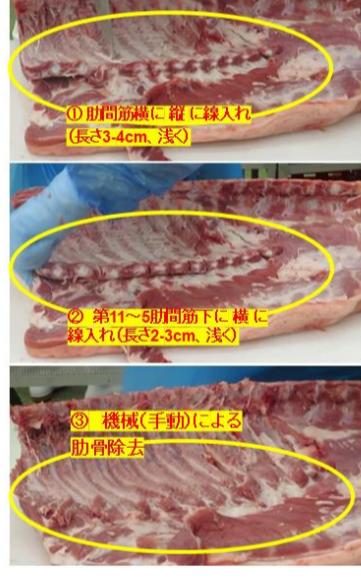
動画 解説



トモ肋骨線入れ

- ①第15(16)肋骨先端下を丸く
- ②第14肋骨から上位は肋間筋横に 縦 に浅く線入れ
- ③第10(11)～5肋骨下に浅く線入れ(引っ掛けを作る)
- ④肋骨除去

トモ肋骨線入れ(mlcSP)



効果と課題

効果

歩留向上：肋間筋が多く残ることから、歩留が維持・向上する。

生産性向上：肋骨の根元を一本ずつ潜らせる必要が無いことから生産性も向上する。

深ナイフのリスク減少：線入れで肋骨下を潜らせないことから、バラ肉に深く傷を入れるリスクが減少する(販売先でのスライサー使用時に傷物が減少)。

労災(腱鞘炎他)：手首を煩雑にこねる作業が減少、労災減少の期待。
リスク減少

修得しやすい技術：山を攻めないので、熟練者でなくとも新人配置が可能。
(熟練不要)

販売先の抵抗は少ない：深ナイフが少なく、肋間筋もきれいに残っているので、販売先はmlcSPであっても違和感なく使用することができる。

課題

肋間筋先端の剥がれ

前側の肋間筋先端の下に“横”に線入れを行うことから、特に前側2つ目までの肋間筋先端下が切り離されて、固定されない。

しかし、販売先ではこの肋間筋はすべて切り剥がして精肉作業をすることから、この剥がれは許容範囲とされる。実際、ミートランドの販売先からのクレーム発生は無い。